

モーニングセッション 2 「生殖医療における心のケア」

『患者にとっての LaLa (晴れ) を目指して』

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

不妊症看護認定看護師 小松原千暁

不妊治療を受ける患者の中には妊娠不成立によって、自信や自尊心、妊娠するはずだった子どもとの未来、不妊治療の継続に伴う費用や時間など多くの喪失を体験する場合があります。また、その喪失体験が自覚されないまま治療を継続することで、悲しみや苦しみを表出することができない感情の麻痺が起これば悲嘆は複雑化することがある。医療者はそのような背景を理解し、患者が自分達らしく納得する治療を選び、その選択をしたことを「自分たちが選んだ」と認識して取り組めるよう支援する必要がある。また、治療のプロセスをどのように過ごしたかが、その後の患者の人生において重要な意味を持つこともあるため、治療中に患者が定期的に治療過程を振り返り、感情を表出でき、現状を再確認し、未来像を再構築できる、そのような場の提供が必要だと考える。

『LaLa』にはハワイ語で『晴れる』という意味がある。懸命に治療と向き合っている患者が少しでも心が暖かく感じる時間を過ごし、他者との交流を通して視野を広げ、明るく心が晴れるような気持ちになって欲しいという願いから、看護部主催の患者会の名称を『LaLa Cafe』とした。2013 年から現在までに 35 回開催している。毎回テーマを決め、長期不妊治療後に出産された方、不育症の治療後に出産された方、卵子提供や養子縁組を選択された方、ふたりの人生を選択された方などの体験者にお話しいただき体験談を聞いた後にディスカッションを行っている。参加された方からは、「先の見えない不妊治療から勇気と光を頂きました」「辛いのは自分達だけじゃないと思った」「夫婦の絆を改めて感じる機会になった」などの感想があった。『LaLa Cafe』以外にも『Next Step』という不妊治療終結を見据えた情報提供や不安や葛藤を共有できる場としており、医師より女性の妊孕性、日本の不妊治療の限界、自己卵子による不妊治療以外の選択肢など、不妊症看護認定看護師（以下 CN）より卵子提供の養子縁組の実態、夫婦ふたりの生活などの情報を提供し、その後にグループディスカッションを行っている。これらの会を通じて、同じように悩み、様々な選択をした患者間で気持ちを共有できることで、孤独感から解放され、未来への視界を広げ自己の感情整理ができるよう支援している。また、個別相談では診察後の看護師説明、CN や生殖医療相談士による相談室を開設し、個室にて感情を表出でき、夫婦の関係性、現在の治療経過を一緒に振り返り、今後の治療やそれ以外の選択肢など様々な悩みについて話し合える場としている。

患者のライフスタイルや希望に沿った情報を提供し、治療終結やそれ以外の選択肢も含めた意思決定ができるような看護支援を通して、ご夫婦で様々なことを考え話し合い、最善の不妊治療に取り組んだ実感が持て「この選択で本当に良かった」と思える意思決定ができるプロセスが、患者にとって真の『LaLa』に繋がればと考えている。